

平成 23 年 10 月 6 日

各 位

東京都中央区日本橋二丁目 15 番 3 号  
 株式会社 エスプール  
 代表取締役会長兼社長 浦上 壮平  
 (コード番号:2471)  
 問い合わせ先: 社長室長 荒井 直  
 電話番号 03(3517)6633 (代表)

## 平成 23 年 11 月期 第 3 四半期の業績ハイライト

株式会社エスプールは、この度、平成 23 年 11 月期第 3 四半期の業績を発表いたしましたので、その概況についてお知らせいたします。詳細につきましては、平成 23 年 10 月 6 日付発表の「平成 23 年 11 月期第 3 四半期決算短信」をご参照ください。

- ◆ **売上高 4,324 百万円、前期比約 5.5%増。主力事業が好調に推移**
  - ・ 人材派遣サービスの需要拡大により、人材ソリューション事業は前期比 20.5%増を達成
- ◆ **収益改善が進み、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに黒字転換へ**
  - ・ 人材派遣サービス、ロジスティクスアウトソーシングサービスが、営業利益を牽引
- ◆ **4Q にて自己資本比率は 10%台まで回復見込み。GC 注記解消に向けた取組みは完了へ**
  - ・ システム事業の売却により 160 百万円の特別利益を計上見込み、309 百万円の現金収入が発生
- ◆ **成長軌道への回帰を目指して、収益部門、成長部門へ経営資源を集中**
  - ・ 創業以来注力してきたビジネスソリューション事業、人材ソリューション事業に経営資源を集中

### 1. 第 3 四半期累計期間 連結業績概況

(単位:百万円/未満切捨)

	平成 22 年 11 月期 第 3 四半期累計期間	平成 23 年 11 月期 第 3 四半期累計期間	前 期 比
売 上 高	4,098	4,324	+5.5%
営 業 利 益	△299	18	—
経 常 利 益	△315	6	—
四 半 期 純 利 益	△745	46	—

### 2. セグメント別業績

(単位:百万円/未満切捨)

セグメント別 売上高	平成 22 年 11 月期 第 3 四半期累計期間	平成 23 年 11 月期 第 3 四半期累計期間	前 期 比
ビジネスソリューション事業	1,371	1,501	+9.5%
人材ソリューション事業	1,941	2,339	+20.5%
パフォーマンス・コンサルティング事業	316	59	△81.1%
システム事業	676	621	△8.2%
その他の	29	13	△54.1%
調 整 額	△237	△210	—
合 計	4,098	4,324	+5.5%

(単位:百万円/未満切捨)

セグメント別 営業利益	平成 22 年 11 月期 第 3 四半期累計期間	平成 23 年 11 月期 第 3 四半期累計期間	前 期 比
ビジネスソリューション事業	△25	88	—
人材ソリューション事業	166	205	+23.9%
パフォーマンス・コンサルティング事業	53	△27	—
システム事業	△198	14	—
その他	△28	△10	—
調整額	△266	△251	—
合計	△299	18	—

※ 各事業区分の主な業務

- ・ ビジネスソリューション事業 …… アウトソーシング受託(ロジスティクス、セールスプロモーションなど)
- ・ 人材ソリューション事業 …… コールセンターや販売業務を中心とした人材派遣サービス
- ・ パフォーマンス・コンサルティング事業 …… 社員研修、組織開発コンサルティング
- ・ システム事業 …… システムエンジニアリングサービス(SES)、SE 派遣、システム開発受託
- ・ その他 …… モバイル・マーケティングサービスなど

(注) 当第1四半期からのマネジメント・アプローチの採用に伴い、全社共通費用の各報告セグメントに対する配賦方法について見直しを行っております。上記の前第3四半期のセグメント別営業利益につきましては、当第3四半期と同様の方法で算出し直しております。

### 3. 第3四半期までの総括

#### [売上高 4,324 百万円、前期比約 5.5%増。主力事業が好調に推移]

売上面では、主力の人材ソリューション事業とビジネスソリューション事業が好調に推移した結果、連結の売上高は 4,324 百万円(前期比 5.5%増)となりました。

人材ソリューション事業では、東日本大震災の影響により主力のコールセンター派遣の需要が一時的に減少しましたが、スマートフォン市場の拡大を背景に携帯電話販売員の派遣が好調に推移したことで、売上高は 2,339 百万円(前期比 20.5%増)となりました。なお、コールセンター業務についても5月以降順調に回復しており、現在では震災前の水準まで戻っております。

ビジネスソリューション事業では、大型の調査案件を受託したキャンペーンアウトソーシングの売上が約 35%増加したほか、ロジスティクスアウトソーシングについても、ダイレクトメール等の発送代行業務が増加するなど堅調に推移したことで、売上高は 1,501 百万円(前期比 9.5%増)となりました。

#### [収益改善が進み、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに黒字転換へ]

収益面では、前期より取り組んできた収益改善が進み、主力事業が全て黒字転換したことで、連結の営業利益は 18 百万円(前期は 299 百万円の営業損失)となりました。

売上が好調に推移した人材ソリューション事業では、営業利益についても順調に増加し、前期比 23.9%増の 205 百万円となりました。ビジネスソリューション事業では、ロジスティクスアウトソーシングにおいて、業務改善による生産性の向上が進み、利益率が大幅に改善したことで、営業利益が約 4.5 倍となったほか、前期に実行した不採算サービスからの撤退効果により、営業利益は 88 百万円(前期は 25 百万円の営業損失)となりました。また、前期に大きな営業損失を計上したシステム事業については、売上こそ減少したものの、経営改革の効果により14百万円の営業利益(前期は198百万円の営業損失)を確保することができました。

連結の四半期純利益は、営業利益の黒字転換に加えて子会社株式の売却益を計上したことで、46 百万円の四半期純利益となり、前期の 745 百万円の四半期純損失から大幅に改善しました。

なお、パフォーマンス・コンサルティング事業については、第1四半期末にて事業を譲渡しているため、第1四半期連結会計期間までの業績となります。

#### 4. 第4四半期以降の取り組みについて

第4四半期以降については、経営基盤の強化を成し遂げ、再び成長軌道に回帰するために、財務体質の一段の強化と、事業の選択と集中を進めてまいります。

##### [自己資本比率は10%台まで回復見込み。GC注記解消に向けた取り組みは完了へ]

平成23年9月29日に、当社の子会社でシステム事業を営む株式会社GIMの全株式を220百万円にて売却いたしました。本株式譲渡により、連結にて160百万円の特別利益の計上を見込むほか、株式の売却益並びに同社に対する貸付金の回収により、309百万円の現金収入が発生しました。

連結にて3期ぶりの黒字転換を達成し、周辺事業の売却を進めたことで、自己資本比率も10%台まで回復する見込みです。重要課題であった財務基盤の安定化に一定の目処が付き、債務超過解消による猶予期間の解除及びGC注記解消に向けた取り組みがほぼ完了いたしました。

##### [成長軌道への回帰を目指して、収益部門、成長部門へ経営資源を集中]

システム事業の売却により、前期より取り組んできた事業構造改革が完了しました。今後は成長軌道への回帰を目指して、創業以来注力してきたビジネスソリューション事業、人材ソリューション事業に経営資源を集中し、市場拡大が見込まれるロジスティクスアウトソーシングや障がい者雇用支援サービス、シェア拡大が見込める人材派遣サービスを成長戦略の軸として事業拡大を図ってまいります。

###### 【人材派遣サービス】

当社が主力とする携帯電話販売及びコールセンター向けの派遣需要は、非常に好調に推移しております。この需要を確実に取り込むべく、新規出店も視野に積極的な拡大を図ってまいります。また、実績向上により幅広いニーズに対応可能となった試験会場運営サービスの拡大にも注力してまいります。

###### 【ロジスティクスアウトソーシングサービス】

市場拡大が続くインターネット通販市場において、物流コストが相対的に高い中堅や新興の通販会社をターゲットとした商品発送代行サービスの拡大に注力してまいります。また、主力のセンター運営サービスについても、高い信頼を獲得している既存顧客を中心に取引の拡大を目指してまいります。

###### 【障がい者雇用支援サービス】

農業を活用した障がい者雇用支援ニーズの潜在的な需要は高く、提案件数は増えているものの、最終決裁までに想定以上に時間を要しております。第1号農園の今期中の完売をめざして、より一層の営業強化を図ってまいります。

#### 5. 今後の見通し

平成23年4月5日に平成23年11月期の連結業績予想を修正しております。

前述とおり、主力事業については売上がほぼ回復し、東日本大震災の業績への影響は限定的であるほか、子会社の株式売却による特別利益の計上を見込むなど、業績修正の要素が存在します。しかしながら、現時点ですべての影響等を確定することはできないため、平成23年11月期の通期連結業績予想につきましては、前回発表の見込みを据え置くものいたします。

(単位:百万円/未満切捨)

	平成22年11月期 通期	平成23年11月期 通期予想	前期比
売上高	5,614	5,527	△1.5%
営業利益	△291	22	—
経常利益	△311	0	—
当期純利益	△758	42	—

本資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時において当社が各種情報により判断した将来情報であります。その内容を当社として保証するものではありません。予想数字等は、今後の経済情勢、市場動向等の変化による不確実性を含有しております。また、本資料は投資勧誘を目的に作成したものではありませんので、投資を行う際は、投資家ご自身のご判断で行いますようお願い申し上げます。